

**製品名: シンタキシン 1 ウサギポリクローナル抗体****カタログ番号: APRab18510**

研究使用のみ

**概要**

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	人間、マウス、ラット、サル
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	35kDa

**抗原情報**

遺伝子名	STX1A
別名	STX1A; STX1; Syntaxin-1A; Neuron-specific antigen HPC-1
遺伝子 ID	6804.0
SwissProt ID	Q16623
免疫原	抗血清はヒトシンタキシン 1A 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 1-50

**背景**

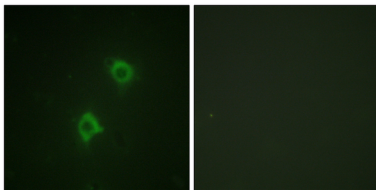
この遺伝子はシンタキシンスーパーファミリーのメンバーをコードします。シンタキシンは神経系特異的なタンパク質であり、シナプス小胞とシナプス前細胞の細胞膜とのドッキングに関与しています。シンタキシンは、C末端に単一の膜貫通ドメイン

ン、SNARE (可溶性 NSF (N-エチルマレイミド感受性融合タンパク質) -接着タンパク質受容体) ドメイン (H3として知られる)、および N 末端に調節ドメイン (Habc) を有しています。シンタキシンはカルシウム依存的にシナプトタグミンに結合し、C 末端の H3 ドメインを介して電位依存性カルシウムチャネルおよびカリウムチャネルと相互作用します。この遺伝子産物は、イオンチャネルの制御とシナプス開口放出における重要な分子です。この遺伝子には、異なるアイソフォームをコードする選択的スプライシング転写バリエーションが見つかっている。[RefSeq 提供、2009 年 9 月]、疾患: STX1A のハプロ不全は、ウィリアムズ症候群 (WBS) という稀な発達障害にみられる特定の心血管系および筋骨格系の異常の原因である可能性がある。これは、染色体バンド 7q11.23 の遺伝子が関与する連続遺伝子欠失症候群である。、機能: シナプス前活性領域におけるシナプス小胞のドッキングに関与している可能性がある。神経伝達物質のエキソサイトーシスにおいて重要な役割を果たす可能性がある。、類似性: シンタキシンファミリーに属する。、類似性: 1 つの t-SNARE コイルドコイル相同ドメインを含む。、サブユニット: SNAP25、VAMP2、および STX1A を含む SNARE コア複合体の一部である。この複合体は CPLX1 に結合します。SYTL4 および STXBP6 に結合します。STX1A および SNAP25 との三元複合体を形成します。OTOF と相互作用します (類似性による)。VAMP8 および SNAP23 との複合体を形成します。VAPA および SYBU と相互作用します。、組織特異性: アイソフォーム 1 は、胎児の脊髄および神経節、および成体の小脳および大脳皮質で高い発現を示します。アイソフォーム 2 は、心臓、肝臓、脂肪組織、骨格筋、腎臓、および脳で発現します。、

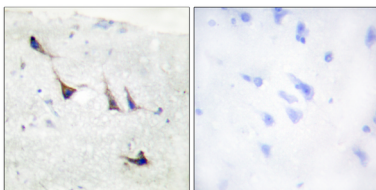
## 研究分野

小胞輸送における SNARE 相互作用;

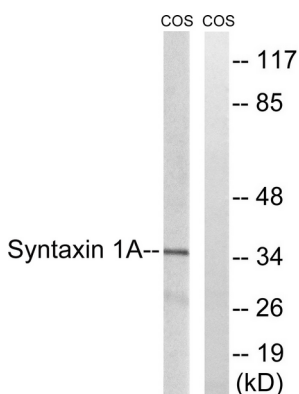
## 画像データ



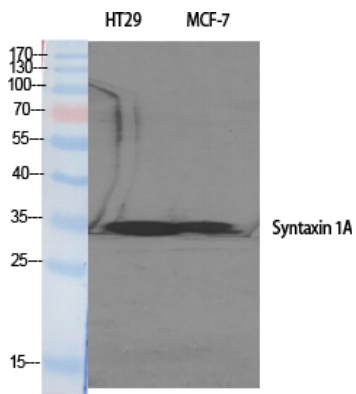
NIH/3T3 細胞におけるシンタキシン 1A 抗体を用いた免疫蛍光染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした状態。



シンタキシン 1A 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト脳組織の免疫組織化学染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした状態。



COS7 細胞ライセートのウェスタンブロット解析 (シンタキシン 1A 抗体を使用)。右レーンは合成ペプチドでブロッキングされている。



シタキシン1ポリクローナル抗体を用いた様々な細胞のウェスタンブロット分析